

## 令和6年度第2回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和7年2月5日（水） 午後1時30分～午後4時00分

2 場所 島田市役所 会議室403

### 3 出席者

(1) 委員 松本委員、森澤委員、片川委員、榛葉委員、高橋委員、沼田委員、岡村委員、松永委員

(2) 事務局 観光文化部文化振興課 佐藤課長、石間課長補佐、三宅主事

(3) 説明者 観光文化部観光課 森川課長、観光文化部博物館課 大谷課長補佐

(4) 傍聴者 0名

### 4 概要

(1) 開会

(2) 議事

#### ○協議事項

#### 島田市文化芸術推進計画書事業詳細調査結果報告

資料2「事業評価シート」に基づき、対象事業について担当課から説明後質疑応答を行った。

委員からの質問・意見は以下のとおり。

事務局：【資料1】をご覧ください。

前回の協議会におきまして、評価項目について選定していただいた。該当項目について、アートマネジメントの3つの視点である「組織の持続的運営」「事業のプロデュース」「マーケティング」とし、それぞれ担当課にて自己評価を行った。本日はこのうち、【芸術文化普及事業】、【諏訪原城宣伝隊の結成・活動】及び【東海道金谷宿お休み処石畳茶屋縁の運営】の3事業について担当課より説明を行う。

#### (1) 芸術文化普及事業（文化振興課）

運営組織は島田市と指定管理者。市が指定管理者に業務を委託し文化事業を行う。より多くの市民が参加できるよう、大人向け、子供向け音楽、講座教室、演劇等幅広いジャンルの公演を行い、事業に偏りがないよう努めている。広報媒体としては、広報しまだをはじめ、島田市HPや文化振興課インスタグラム、また島田市LINEを使った配信などを行っている。

令和5年度事業の内容としては、親子向け事業として「くぼたまさと親子工作教室」、また学生一般向けとしまして、「陸上自衛隊東部方面音楽隊による演奏会」を開催した。こちらの事業では、自衛隊隊員による中学生、高校生への音楽指導を実施し、指導を受けた学生がコンサート当日舞台上に立ち音楽隊と合同で演奏を行うなど学生たちにとりまして貴重な体験となった。

その他、NHK 公開収録「真打共演」や直木賞受賞者永井彩耶子さんによる講演会を実施した。

令和6年度は、静岡県立美術館移動美術展、島田市ふるさと大使別所哲也氏に参画いただいたショートショートフィルムフェスティバル、同じく島田市ふるさと大使であります三遊亭遊喜氏による落語公演や、市内にゆかりのある若手芸術家を応援するための未来の芸術家応援コンサートを実施した。

また今月19日には航空自衛隊中部航空音楽隊によるコンサートを開催する。

令和7年度につきましては、島田市が市政施行20周年を迎えることから、島田市出身やゆかりのある著名人による公演等を予定している。多くの方に来場していただけるよう今後とも開催方法を検討していきたいと思っている。

今後の事業についてなど、委員の皆様からアドバイスいただければと思います。よろしくお願ひします。

委員：「B」という評価を付けた理由はあるか

事務局：例年、観客数の確保に苦慮しているが、今回の対象事業はほぼ満員であった。マーケティングに関しては本来であれば「A」とは思っている。

委員：一年度にたくさんの方が集まりました、盛況でしたでは意味がない、この結果がどう繋がっていくか見通しがすごく大事なのではないかと思う。このように盛況なので、新しいホールを作ろうなどという意見に発展していくのではないか。輪切りで終わったのでは意味がない。

事務局：今回は、仕掛けというか、まずはアーティストを市民に周知しようと開催したものである。昔は認知度が高いアーティストを呼んで興行を行うことが主流であったが、今は例えば映像では、スマートフォンで誰でも動画を撮影しYouTubeなどの媒体に投稿できる時代である。そういった仕掛けづくりを行い次に繋げていきたい

令和7年度はショートフィルムフェスティバルに関連し映像の手法に関するワークショップを実施したいと考えている。

会長：別所哲也のような人が育ったら一人でも満員になる。満員になったからよいわけではない。ガラガラでもその中に一人でも将来に繋がっていく人材を発掘できればよい。

委員：事業の全体の評価か。評価シートを見るだけでは事業名がわからない、少なくとも事業名を記載するとか工夫が必要である。資料を見やすくわかりやすくすべきである。

入場者目標 3,000 人は全体の数か。定数的なものど定量的なものが書いてあるとわかりやすい。

会 長：定量と定性は違ふ。定量は数字でわかるが定性は数字では測れない価値もある

委 員：Instagram登録者数がまだまだ少ない。どのようにしたらヒットするかも少し工夫をすべきである。出演者にメンションしてもらうとかハッシュタグについても少ない。

会 長：ハッシュタグの付け方次第で閲覧数が増える。

委 員：今年、別所哲也さんをはじめとして、若い方のコンサートなど様々な事業があった。来年度の文化事業はどのような予定になっているか

事 務 局：来年度は、従来の文化事業というよりは市政 20 周年記念事業としてショートフィルムフェスティバル、三遊亭遊喜公演、N 響池田氏の演奏会を考えている。市の予算以外に交付金の申請を予定している。島田市の文化を牽引するような、島田市をアピールするような著名人を多く起用して島田市の認知度を高め島田市の来訪者数を増やしたいと考えている。それと併せて最新映像技術を使用した映像制作ワークショップの開催を考えている。

委 員：例えば、商工会のフィルムサポートなど、市民をまきこんだ形イベントを開催していただきたい。また 10 年 20 年後に映像を作成し世界に発信していくのは若い世代になるので、このようなことを見据え一過性のイベントにならないようにしてほしい。難しいものではなく簡単などころから始めていくのがいい。

委 員：直木賞作家の永井紗耶子さんについてはとてもよかった。島田市ゆかりのある方が島田に来て話をしてくれる機会というのはすごいことだと思う。ショートショートもすぐ満員になったということなので良い事業をしていると思う。Instagramのアカウントは課ごとに持っているがそこで発信していくのは難しい。島田市のInstagramはフォロー数も多く情報も広がるので、活用すれば認知度が上がると思う。ショートショート事業の歩歩路での事業は告知が上手くいかず苦勞した。イベントが大人向けのものが多いと感じた。よく小学校に劇団が訪問し演劇を行っているが別事業になるのか。

事 務 局：確かに学校の公演は学校教育課であったり、福祉関係の部署では福祉関係の公演会や障がい者向けの芸術の実演を行ったり、市として統一が取れていない。

委 員：子供向けの公演が事業の候補にあがることはあるか。

事 務 局：子供向けの事業を実施することはある。また、芸術家派遣事業として、学校にアーティストを派遣し子供たちに芸術に触れる機会を提供して

いる。

委員：事業評価シートの記入についてもっとアピールするポイントを記入すべきではないか。評価するには情報が少ない。イベント名や参加者数など記入すべき項目があるのではないか。別紙や写真などを使って説明できないか。

事務局：ショートショートフェスティバルについては画像がいくつかありますので説明します。

11月に実施したショートショートフェスティバルでは、別所哲也さんと地元出身の映画監督平林さん、島田で映像を作成したトムスレモンズさんなどに来ていただき、ショートフィルムを活用した地域活性化の方法や実践例についてお話をいただいた事業である。

委員：開催場所はどこか

事務局：旧小学校の跡地がクランピング施設になっており、その体育館で実施した。

委員：当日の参加者は何人か。

事務局：168人です。スペースの関係で椅子の用意が出来なかった。

事務局：今回は令和7年度事業のプレイベントとして開催した。アンケートを見ても反響が高かったのが次に繋がる事業であったと思う。

委員：指定管理者に委託して実施しているとのことだが、もっと市民を巻き込むような事業を展開してもらいたい。市民の中には興味を持っている人がいると思う。そのような人達を掘り起こしながら育てていくというのが文化普及事業であると思う。

会長：評価はどうでしょうか。マーケティングの項目は評価Aでよろしいでしょうか。

事務局：文化事業を実施する目的として、「市民に上質な文化を提供する」「人材育成」という二つの観点がある「市民に上質な文化を提供する」という点については達成したが、「人材育成」については1年で達成できるものではないため、長期的に取り組んでいきたい。

委員：マーケティングはAで良いのではないか。

会長：マーケティングはAにしましょう。

## (2) 諏訪原城宣伝隊の結成・活動（博物館課）

会長：博物館から説明をお願いします。

博物館課：諏訪原城は国指定文化財として認定を受けたのが昭和50年でそこから少しずつ整備を発掘調査や木を切ったり草を刈ったり整備しながらおこなった発掘調査が平成27年に終了した。いろいろ整備費用をかけていった。トータルで約6億円近く整備費用を使っている。そのうち半分以

上は国からの補助があるがそれだけ費用をかけているのにほとんどの人が諏訪原城を知らない一部の人たちが訪れる場所であった。

何とか諏訪原城を周知しなければということで諏訪原城応援隊を結成した。評価シートで、運営組織で「A」を付けているのは、春風亭昇太師匠を招致できたということで「A」を付けている。お城のことが好きで中学、高校生のころ諏訪原城をよく訪れていたという情報を学芸員との偶然の繋がりで見つけて、令和元年当時は大阪城や名古屋城のような城郭のお城が好きで多くメディアでも取り入れていたなかで、昇太師匠はそうではなく山城が好きだという話があり、諏訪原城の応援隊の隊長に就任してくれないかと打診した結果引き受けていただいた。隊長を引き受けてくれたのは、全国の中で島田市が初めてのことであった。応援隊のメンバーは、昇太師匠の他元教員で日本城郭協会の理事を務めている加藤理文さんとフリーアナウンサーの片川乃理子さんが勤めている。昇太さんも色々な知識をお持ちだが、さらに知識を補うために県内の有識者を据えて、昇太師匠がいないところでも説明できるようにラジオのパーソナリティをやっている片川乃理子さんも据えている。そのほかにも武将隊の方も一緒になって諏訪原城をPRしている。いまでは全国の山城がある市町が諏訪原城の活動を見習う傾向が出ている。

実際の数字としては、平成30年12月のHP閲覧数59人から令和5年1月4,446人に増加した。諏訪原城の解説を掲載しているページなのでほぼ新規の閲覧者である。当初の目的の宣伝してくれる人材を確保し認知度を上げたいという目的であったため、HPの閲覧回数が一つの指標になるということで、マーケティングも含めて「A」という評価をつけさせていただいた。

委員：人気ができるのは良いことである。実際訪れた人が来てよかったと思うような仕掛けはあるか。

博物館課：ビクターセンターが平成31年3月に完成して、ここに島田工業高校の生徒が復元模型を作ってくれたり解説があったりして、解説をみて現地へ行くとかということがある。

会長：無人なのであまり印象に残っていない。現地で解説する人がいるといい。解説はあるが、人が話すと楽しい。

博物館課：おっしゃるとおり昇太師匠のイベントは、昇太師匠が現地で参加者に説明する。大変好評であるので、昇太師匠の解説を録音し現地の要所要所にスマホでQRコードを読み取ると解説が聞けるようにしている。

委員：小学生の遠足で訪れる時、1クラスに1人ずつ観光ボランティアがつくが各々スキルが違う。一律した解説になるよう観光ボランティアを育成していただきたい。

博物館課：昇太師匠が宣伝しているおかげで観光ボランティアが増えた。

委員：それが地域の人づくりになると思う。

会長：蓬莱橋もそうだが、解説ボランティアを作ったらどうか。

博物館課：諏訪原城は竹田が作ってそのあと徳川になり、最初に整備したのが東海道である。東海道のところに川越遺跡があり、川越人足や武士が仕事が無くなった後に蓬莱橋を作って牧之原台地を開拓した。それが今のお茶の生産に繋がっている。

委員：外部の人間からみたら価値あるものがたくさんある。

会長：将来、ガイドする人を作りたい。

### （3）東海道金谷宿お休み処石畳茶屋縁の運営（観光課）

観光課：旧金谷町時代に石畳茶屋を整備している。平成6年3月に休憩施設や展示スペースとして活用した。平成29年度から令和3年度まで指定管理施設として管理していた。令和4年度から行政財産使用許可制度を利用し施設の利用者を募った。令和5年7月から石畳茶屋～縁～として地元企業が運営している。江戸時代の末期に720メートルくらいの山石で敷き詰められた石畳が造成された。明治以降、舗装されたり元の面影がなくなっていたが、平成3年に平成の道普請として、一人一石運動として町民の皆さんで石を敷いた。430メートルの石畳が完成した。坂の途中には六角堂があって、すべらず地蔵尊として合格祈願の名所となっている。その先を上ると諏訪原城などがある。観光客が歩いていることも多いため観光振興の場所として大事なところと考えている。

そういったなかで、食事スペースや図書館、バレルサウナを完備している。古民家の雰囲気の中でゆったりと食事をしていただける場所である。事業評価シートの説明をさせていただきます。

目的は、東海道金谷宿を訪れる人たちが気軽に立ち寄って休憩ができるお休み処として文化振興観光客誘致を図ることを目的としている。内容については、行政財産の使用許可により運営を行っている。

事業評価については、毎月事業報告に基づき観光課職員と協議を行い報告を受けている。市内の他の観光施設と連携したイベントなど集客につながるような工夫を目指していきたくして話し合いを行っている。マーケティングの部分は、パンフレットの配架などにより市の主催イベントなどお知らせをしている。今後ともイベント等の発信を行い施設の認知度を向上させていきたい。11月より利用者アンケートを実施している。20代から30代の利用が6割くらいを占めている。金谷地区のロケーションとしては、KADODE OOIGAWA や大井川鉄道や空港等周遊していく仕掛けを取り組んでいかななくてはならない。石畳の先には小夜の中山がある。掛川市とも協力して観光振興に努めていきたいと考えている。

- 会長；ご意見がある方はお願いします。
- 委員：運営組織について、指定管理者制度ではなく、行政財産使用許可で対応しているということだが、使用料はいくらか。
- 観光課：売り上げの5%である。それなりにお客様もいらしていただいている。活用してもらうことによって情報発信のもとになる。会社として地域振興のために事業を行っていただいております市としては大変ありがたい。
- 委員：事業費の1,497,905円は何か。
- 観光課：前の指定管理者が設置していたエアコン等機材の設置や修繕費である。
- 委員：最初作るときになぜ坂の登り口につくったのか質問した。登り切ったところになぜ作らなかったのか。
- 観光課：土地の確保等の問題があったのではないかと。ただ、民間の喫茶店なども出来ているので民間を呼び込むことも必要である。
- 委員：できれば坂の上に駐車場を整備してほしい。
- 観光課：諏訪原城もあるためできる限り取り組んでいくことは必要だと思う。
- 委員：長さはどのくらいか。
- 観光課：430メートルである。
- 委員：一人一石運動で持ってきた石は川石である、当時は山石であった。山石は滑りにくい。
- 委員：坂道を使ったイベント等開催しているか。
- 観光課：イベントは実施していないが、さわやかウォーキングの舞台であったりすべらず地蔵での合格祈願祭など行っている。もう少し仕掛けがあってもいいのではと感じている。
- 委員；一度だけすべらず地蔵の前で観月会を行ったことがある。眺望がとてもよかった。
- 観光課：管理者にもそのような視点で仕掛けていけるものを提案していただけたらと思う。観光課、観光協会としても頑張っていきたい。
- 委員：パンフレットに緑茶化計画のロゴが使われているが、これだけでなく実際緑茶化計画の中でお茶を呈茶できればいいのではないかと思う。新茶の時期にはお茶を出すとかリクエストしても良いのではないか。
- 観光課：お茶のドリンクメニューもあり、お茶スイーツやだんごなどお茶に合うようなものも提供している。
- 委員：お茶をメインにしたメニューがあるともっといいのではないかと。島田市はランドデザインとして緑茶で色は緑である。緑のポストがどこにあるかというのを探すのが難しい。日本郵便と提携して市内のポストをすべて緑にするとか、そういう提案を市からしてもいいのではないかと。全国発信する時に島田はみどりのポストがあるということが一つのポ

イントになり、緑は何かと言われたらお茶となる。地域の人が緑を意識するようになる。例えば緑の車を購入したら市内で使える商品券を発行するなど。

観光課：ポストではないが蓬莱橋には緑茶化計画のロゴを印刷した自動販売機がある。

委員：緑は誠実な色であるので、市民の誠実さを醸成させる意味でも緑を全面に出していくべきである。お茶だけが緑ではなく市民全体が緑だという形まで持っていく。

観光課：こうした取り組みはシティプロモーション課だけではなく市全体で意識しながら進めていくのが大切であると思う。市内の事業者の皆さんにもそういった意識を持っていただきたいと思う。取組としては10年経つが今後も継続していくのであれば見直していくのも必要ではないかと思う。

委員：もう一つ、茶まつりについてなぜ4月の第2週に行うのか。お茶も出来ていないのに。

観光課：新茶の季節の到来の前に祭りを行っているということは聞いている。

委員：茶の葉も緑になっていないし、インバウンドで人を呼べるのか。昔は5月の3日から5日の八十八夜前後に行っていた。金谷駅から旧金谷支所まで茶娘道中が繋がっていた。今インバウンドの時代なので外からお客を呼び込まなければならない。お茶まつりは緑茶化計画のいいPRになると思う。

観光課：茶まつりの保存振興会にご意見を伝えさせていただきますし、市としても関わることであればしっかりバックアップしていかなければならないと思う。

委員：八十八夜は、暦の上で一番いい時期でお茶の葉が萌黄色に燃えている時期であるので、島田市のお茶を全国PRできるいいチャンスである。4月にやるべき祭ではない。

会長：この評価については何かご意見ありますか。  
特にご意見なければよろしいでしょうか。

委員：グランシップにいる時に県内をアウトリーチで色々回った時に菊川茶や掛川茶、島田茶など各市でなぜ違うのか。県外の人から見るとすべて静岡茶である。市で競っているのか。

観光課：茶産地としての川根茶だと他のところとは地形が違う独特のお茶ができるといったものもあるし、島田市の茶振興協会も島田、金谷、川根の3支部がある。

委員：島田駅に「地球上で最も緑茶を愛するまち」とあるが、外から見ると山城もそうだし旧東海道もそうだしもっとシティセールスとして出して



いいものがあるように見える。山城は戦国時代からあるし川越遺跡や旧東海道など我々からみたらすごくうらやましい歴史的資産がたくさんある。なぜ、お茶なのか。

観光課：お茶だけではなく、大井川や旧東海道など色々なものがある。

現代の利便性を追求すると金谷坂など自分の足で登って歩くとかそういうものがどれだけ色々な人にささるのかという自問するところはある。しかし、島田市にはマラソン大会があるのでスポーツの下地はあると思う。こういったものを金谷宿に生かしていければ活用するアイデアはあると思う、お茶だけではなく使えるものは使いたい。

### **(3) その他**

次期文化芸術推進計画策定に向け「これからの自治体の文化政策」について松本会長より講義

### **(4) 閉会**